

# 情報委員の「眼」

## 野本 孝二郎 委員

### 情報が「芽」吹くために

【約4500ha（ヘクタール、1ha＝1万0000㎡）この数字を聞いて直ぐにピンと来る方はかなりの情報通（あるいはマニア？）だと思います。

これは日本最小の市の面積でも、日本最大の国立公園の面積でもありません。SC協会が把握する約2800あるわが国のSC総面積です（東京の練馬区、名古屋の港区、大阪の貝塚市と同じ位の大きさ）。ちなみに日本最小の市は埼玉県の蕨市で約510ha、日本最大の国立公園は北海道の大雪山国立公園で22万6764haです。

これだけの施設が日々お客様と対峙し、切磋琢磨している中で、「情報」はまさしく生命線とも言えるものです。我々情報委員会はそんな激動のSC業界においてSC協会が果たすべき役割を思い、平成16年には広報誌を「SC JAPAN TODAY

AY」に刷新し、平成18年からはホームページのリニューアルを行っており、業界を取り巻く環境やトピックス、統計情報などを紹介し、広く業界活性化に役立てることを目指しました。前出の数字などもその一例です。

しかしながら、「情報」特に統計資料やすでに世に出て流布している情報というものはあくまでも過去の結果から産み落とされた種のようなものであり、それだけでももちろん価値はあるのですが、一過性が強く、すぐに風化してしまいます。

情報が氾濫している時代と言われるて久しく、インターネットなどを使えば会社の業績から話題のスポット、最新の店舗情報まであらゆる情報が地球の裏側からでも見ることができます。

そんな時代に種としての情報だけではどうしても同質化は避けられま

せん。

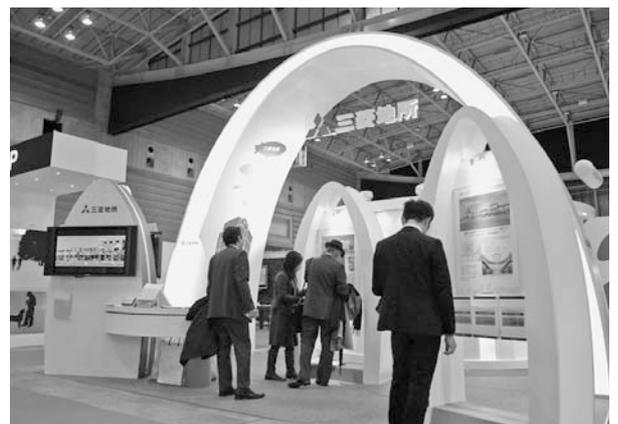
「あれ？ここ前に来たっけ？」これはSC廻りを趣味とする私に付き合わされる妻が、初めて行ったSCで悪気無く囁き、私の胸に刺さった一言…。

種は育てて「芽」吹かせ、果実として育ててこそ本当の価値を持つものなのです。

私の拙い経験から学んだ情報を育てるのに不可欠なもの、それはやはり情報を持つ人が集い、種を育むプラットフォームのごとく作用する【交流の場】です。

情報を持つ人に、別の角度からの意見を栄養のごとく加えることにより、種は「芽」吹くのです。私も何度かテナントさんとの業態の話し合いや、施設企画の会議の場で、そうした「芽」吹き場の場面に遭遇してきました。

過日第32回日本ショッピングセン



ビジネスフェアに出展した三菱地所のブース

ター全国大会が開催され、ビジネスフェアは総来場者3万7000人、出展者数も223社・395小間と最高の規模になりました。活気ある会場内ではそこかしこで情報に栄養が与えられており、きつとこれから花開いてゆくことでしょう…。

（「眼」と「芽」を掛けたのですが、気付いていただけましたでしょうか？）

#### 野本 孝二郎 (のもと こうじろう)

三菱地所(株) SC事業企画部 施設企画担当  
1993年三菱地所(株)入社。1996年より商業施設関係業務に従事。

自社開発案件の他、他社のコンサルティング業務などに係り、関係施設への出向などを経て2006年より現職。